

投資事業評価調書（継続：再々評価）

| | | | | | |
|---|--|---------------------|---|--------|----------------|
| 部課室名 | 県土整備部 河川整備課 | 記入責任者職氏名 (担当者氏名) | 河川整備課長 佐々木良作 (河川開発係長 渡辺弘昌) | 内線 | 4408 (4433) |
| 事業種目 | ダム事業 | 事業採択年度 | H5 | 現計画 | 再評価時点 |
| 事業名 | 武庫川ダム建設事業 | 着工年度 | 未着工 | 総事業費 | - 290 億円 |
| | | 再評価年度 | H10 | 内用地補償費 | - 66 億円 |
| 事業区間 | 二級河川 武庫川水系 武庫川 | | 完成予定年度 | - | H19 |
| 所在地 | 左岸：宝塚市川面 右岸：西宮市塩瀬町 | | 進捗率 (内用補進捗率) | - | 4.2% (0%) |
| 事業の目的（H10再評価時点） | | | 事業内容（H10再評価時点） | | |
| 河川改修と併せて武庫川ダムにより武庫川下流域の洪水被害を防除するとともに、ダム堤体を利用してレクリエーションの場を設け県民の利用に供する。 | | | 重力式コンクリートダム ・ダム高 73 m ・堤体積 18 万m3 ・総貯水量 950 万m3 | | |
| 進捗状況 | <p>【事業の経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年9月 台風10号と前線による洪水発生 ・平成5年4月 武庫川ダム建設事業が補助採択（レクリエーション多目的ダム事業） ・平成10年12月 事業評価監視委員会から「事業継続は妥当」との意見 ただし、自然環境や景観の保全に十分配慮（公共事業全般）、対話行政を進めるなど情報公開を含めた広報活動の強化に努力すべき（武庫川ダム）との付帯意見 ・平成11年12月 条例に基づき、環境影響評価概要書を作成し、知事に提出 ・平成12年5月 環境影響評価概要書に対する知事の審査意見書 ・平成12年8月まで 武庫川下流沿川住民への説明会を25回開催（10年6月～） ・平成12年9月 県議会で知事が「武庫川の治水対策に対する合意形成の新たな取り組みを行い、総合的な治水対策を検討したい」と表明 ・平成15年3月 第1回「(仮称)武庫川委員会」準備会議（「(仮称)武庫川委員会」のメンバー選定及び運営方法について検討）を開催 ・平成15年8月まで 準備会議を6回開催（「(仮称)武庫川委員会」の委員構成について検討） ・平成15年9月 第7回準備会議（委員選定について検討） | | | | |
| 社会情勢の変化 | <p>武庫川の治水対策は、河川改修と併せたダムの建設が最も効果的で現実的であると判断し、県は武庫川ダム建設事業を平成5年度から開始した。</p> <p>その後、市民の価値観の多様化や参加意識の高揚の中で、事業の進め方や治水計画の内容、環境対策についての様々な意見が、県民等から意見書、署名、要望書の形で県に提出された。また、近年の異常気象による集中豪雨を見ると、河川改修やダム建設だけでは十分な対応が出来ない現象も発生している。</p> <p>このため、県は、武庫川の治水対策に対する合意形成の新たな取り組みを始めるとともに、河川整備基本方針、河川整備計画策定に向け学識経験者や地域住民による（仮称）武庫川委員会を設置し、総合的な治水対策をゼロベースから検討していくこととした。</p> | | | | |
| 評価視点 | 評価結果の説明 | | | | |
| 必要性 | <p>これまでに、地形測量、地質調査、環境調査、流量観測などを実施してきた。</p> <p>今後、(仮称)武庫川委員会において、ダムの必要性についても、ダムのある場合、無い場合の両方について幅広い角度から検討していただくことになるが、その際、治水計画の基礎とする流量の設定や、流域の環境とそれへの影響が主要な検討項目の一つになると考えられる。</p> <p>このため、流量観測や環境調査を継続して実施し、データを蓄積するとともに、(仮称)武庫川委員会での検討に資するための調査を予定している。</p> | | | | |
| 再々評価の結果 | 調査継続 | 左の理由 | 武庫川ダム建設事業については、河川整備基本方針、河川整備計画を策定中であることから、これらの策定に必要な調査に限定して継続妥当である。 | | |